

英語科海外ホームステイ研修 13 日目 の報告をお送りいたします。

本日はついに最終日、朝、ホストファミリーに送ってもらいそして涙の別れです。この2週間があったという間に過ぎ「永住権を取りたい」という声も上がります。またその後はすんなりバスにと思いましたが、今度はバディが駆け付け、なかなか出発することができません。こちら昨日のさよならパーティーでお別れをしたのですが、出発ギリギリまで、中には授業に遅刻するのも辞さないということで生徒たちの後を追い送り出してくれました。郡校生を本当の仲間と認めてくれ、楽しいときは大いに笑い、そして別れには悲しさを体全体で表現するバディたち、なかなか自分を表現することが苦手な生徒たちも多かったのですが、ハグや感謝をしっかりと伝えていた様子からは、バディとの関係、後押しによって一皮むけることができた＝成果があったように思います。

涙々の本当に最後の別れを終えてからは、待ちに待ったカランビンワイルドサンクチュアリ（動物園）とゴールドコーストを訪問いたしました。動物園ではコアラやカンガルーに始まり、タスマニアンデビルやウォンバットなどオーストラリア固有の動物を見学し、そして世界的ビーチリゾートであるゴールドコーストでは、ブリスベンのあるクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州の州境であり、キャプテンクックゆかりの地でもあるポイントデンジャー（岬）を訪問し、そしてリゾートの中心地サーファーズパラダイスでは2時間弱の自由時間を取りました。なおこの研修の最後の締めくくりにふさわしく、サーファーズパラダイスでは虹を見ることができました。

そして先ほどブリスベン空港に到着いたしました。ここでの研修当初は不安げな表情をしていた生徒たちも今は少し自信がついたのか表情も明るくなっています。オーストラリアを離れる寂しさ、その反面、地元に戻ることができるうれしさ両方が入り混じった感情となっているようです。この短い期間でたくさんの人々に会い、挑戦し、多くの示唆を得ることが出来た生徒たち、自分自身と向き合うことができた研修であったと思います。

現在、順調に出国手続きを済ませ、経由地台北までの航空機の搭乗を待っています。風邪気味の生徒はいますが、ここでの研修を無事に全うできました。これまで報告をご覧いただき、また研修運営を支えていただきまして、誠にありがとうございました。この後の郡山までの行程も安全に全うできるよう気を抜かず最後まで研修をすすめてまいります。以上、研修最後のご報告とさせていただきます。

■動物園にて





■ゴールドコースト（ポイントデンジャーとサーファーズパラダイス）にて

